

第5章 施策の推進に向けて

5-1 東北の観光を取り巻く大きな変化への対応

東北は定住人口の減少、「団体旅行」「物見遊山型」から「個人旅行」「参加型体験型」への旅行の「型」の変化、情報の氾濫、情報収集・旅行手配の多様化、迅速化などインターネット普及による影響等さまざまな変化が今後も予想される。このことから、「地域の日常空間」を楽しむ滞在交流型への転換や、地域と観光客が長く結びつくりピーターの獲得を目指す観光交流を促進させるため、東北の各地域それぞれが「地域の日常空間」を最大限に活かした特色ある観光素材を発掘し、磨きあげることにより、それぞれの地域の特色を活かしていく観光地域づくりが必要である。被災地についても、被災地の特色を際立たせていく観光地域づくりが重要である。また、地域の魅力を新たに発見してもらうことを通じて、地域の人々にも、地域への愛着や誇りが生まれることが大切である。

一方、東北の情報発信やプロモーションに際しては、これまでの地域や県などの単独での取組みに加え、広域的な、あるいは東北一体となった取組みに特に力を入れていく必要がある。

また、観光関係者に限らず地域の住民も含めた全員が観光客を心から歓迎し、東北ならではの「おもてなし」で接することが必要である。

5-2 観光の力による震災からの復興に向けて

前文でも述べたように、このたびの震災により失ったものも大きかったが、そこから得たものも、東北ブロックとしての結束（「絆」）、被災地での新たな観光形態の芽生えなど、決して少なくない。

太平洋沿岸部ではボランティアや復興関係者等、多くの方々が被災地を訪れ、地域の方々と交流し、地域への愛着が生まれ、再び家族や友人を連れて被災地を訪れるケースも出てきている。こうしたケースは、人と人とのつながり、絆を通して地元の方々の「おもてなし」と「感謝の気持ち」で生じた現象である。被災地の場合、地域での主要な産業が打撃を受けたこともあり、その地域を訪問する人が震災前より少なくなっていることが珍しくない。こうした中で、このような絆に基づく被災地への再来訪も、貴重な観光の形態の一つとして、大切にしていく必要がある。

こうした人と人とのつながり、絆といったものに加えて、忘れてはならないのが、ボランティア等が地域に入って地域の方々とともに祭りや行事に積極的に参加することが、震災によって失われかけた地域の伝統、文化、誇り等を維持していくことに貢献している、という点である。このように、観光は雇用や地域経済への貢献のみならず、復興に向けた精神面でのプラス効果も無視できない。また、観光により交流人口が増えることが、地域の産業を再生していく上でも重要である。こうした観点から観光施策を推進していくことにより、被災地の復興につなげていくことが重要である。

5-3 フォローアップ

「東北観光基本計画」は、「観光立国推進基本計画」に基づいて策定したものであり、本計画に基づく目標の達成状況及び施策の推進状況を毎年度フォローし、東北地方交通審議会において報告する。

「観光立国推進基本計画」は今後5年程度を見通して策定されており、本計画もより長期的な展望を視野に入れつつ、今後5年間を対象としている。しかし、今後観光をめぐる諸情勢が大きく変わることが十分に考えられ、必要に応じて本計画も所要の見直しを行うものとする。